

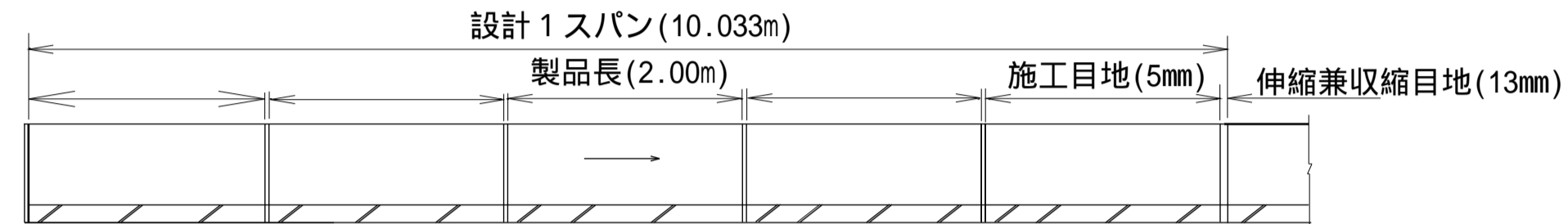
ベンチフリューム等（ベンチフリューム、県規格排水フリューム及びこれらに準ずる製品）鉄筋コンクリート二次製品水路の標準目地施工

- ベンチフリューム等の目地施工は設計図書等に基づいて行うが、特に指定が無い場合、受注者は当標準目地施工に基づいて監督員と協議するものとする。
- 目地の定義
 - 伸縮目地：コンクリート構造物の温度変化による伸縮に対応するための目地
 - 収縮目地：コンクリート構造物の乾燥収縮等による収縮ひび割れに対応するための目地
 - 施工目地：施工上の都合で設けられる打ち継ぎ目

3 目地の標準的な配置

- 現場打ちコンクリートの場合
 - 1 スパンは、鉄筋の定尺長から最大9mとし、伸縮目地（目地材t=20mm）と収縮目地を1スパン毎に交互に設置する。
- L型水路の場合の特例

施工目地(5mm) + 伸縮目地(13mm)で、2mの製品5本あたり10.033m仕上がり設計1スパンの標準となる。



(3) ベンチフリューム等（均等配分型）の場合

- 施工目地(5mm)のみに均等配分することが標準となる。
- ベンチフリューム等については、均等配分型を標準として積算しているが、これによりがたい場合は別途協議を要する。
- また、製品あたり5mmを標準としているので、施工に当たっては概ね5mm程度を目標に施工すること。

4 製品種別毎の目地タイプ

(1) ベンチフリュームの場合

- case 1 モルタル処理（1：3）を標準とし、施工厚さ(t)は二次製品側壁厚さ程度とする。 選択
ただし、伸縮目地相当箇所のみシール目地として採用される場合もある。 選択
- case 2 シール目地施工を標準とする。 選択
- case 3 空目地を標準とする。 選択

(2) 排水フリュームの場合

- case 1 モルタル処理（1：3）を標準とし、施工の厚さ(t)は二次製品側壁厚程度とする。 選択
- case 2 吸い出し防止材（10mm以上）の貼り付け施工を標準とする。 選択
- case 3 空目地を標準とする。 選択
- 軟弱地盤等における製品の乱傾防止対策工法として、一部製品天端付近に目地施工される。 選択

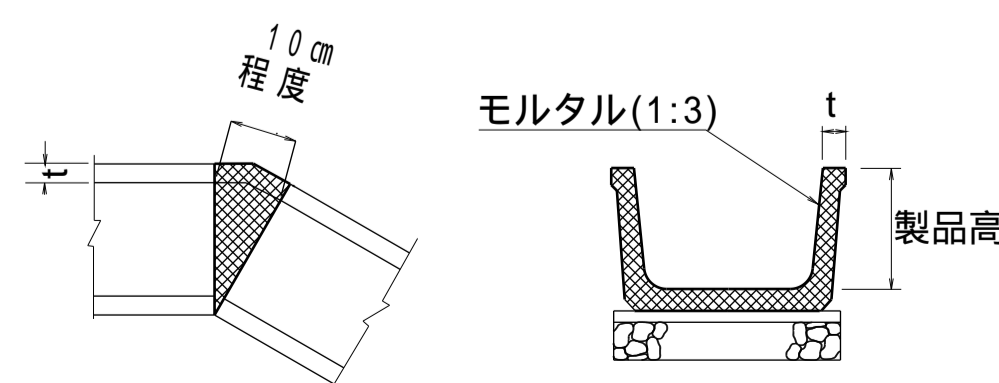
(3) 用排兼用水路の特例

- case 1 用水路断面相当分について用水路に準じた目地施工を標準とする。 選択

5 標準的な目地施工

- 側壁厚は、コンクリート二次製品の目地構造を活用し、コンクリート二次製品側壁厚までとする。
- 底板厚は、コンクリート二次製品の目地構造を活用し、コンクリート二次製品底板厚までとする。
- 前後の水路に基礎がある場合は連続して基礎を施工し、基礎がない場合は洗い砂等の散布程度でモルタルを直接打設することができる。
- 吸い出し防止材を貼り付ける場合は、巻き込み幅を十分に確保する。
また、背面土が不安定でせり出しが予想される場合は、別途協議することを要する。

標準的な目地施工図



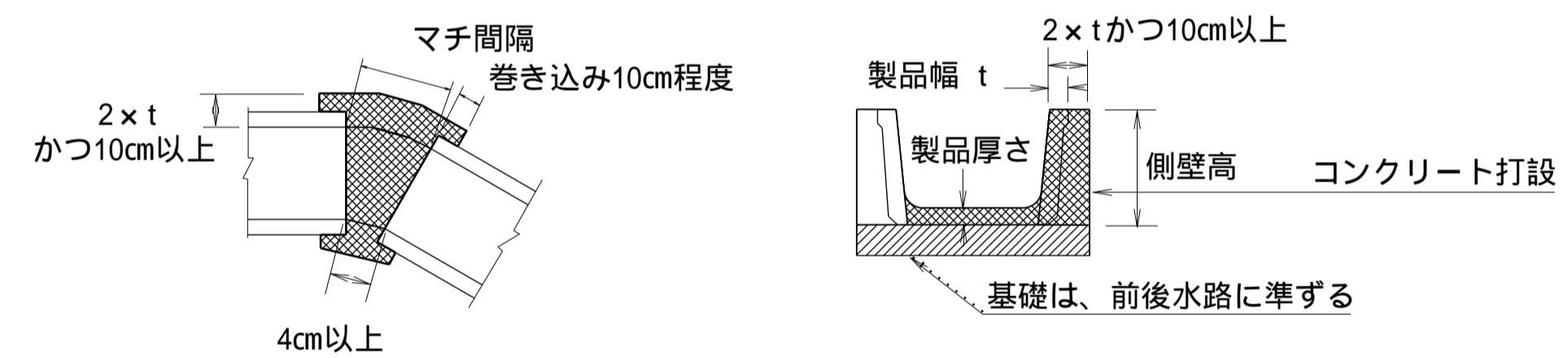
6 目地施工としての取り扱い範囲

- 目地施工の範囲は、様々な要因（製品の種類、規格、目地構造、目地の材質等）から一律に規定することはできないが、通常の目地構造（製品背面に捨て型枠をあて、表面は型枠なしでモルタル施工できる程度の開き）から、目地の最大間隔が片側又は両側であってもそれぞれ概ね10cm程度までとする。
- 目地の施工範囲を超える場合は、「7 標準的な襷（マチ）部施工」による。

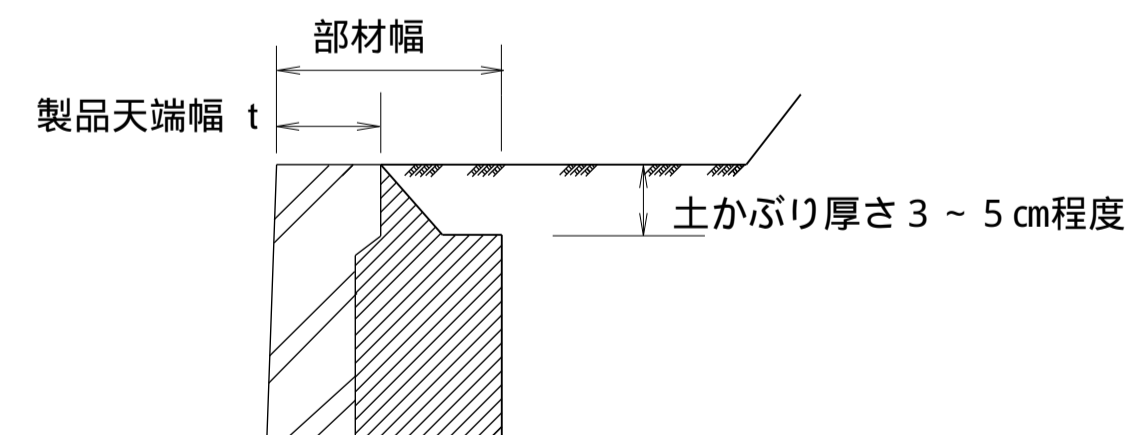
7 標準的な襷（マチ）部施工

- コンクリート骨材の投入に必要な寸法から、内側の狭い方で最低4cm以上（18-8-40-60%BBの場合）を確保するものとし、更に水路高かつマチ間隔が大きい場合は、二次製品に見合う鉄筋構造物とすることで、二次製品と同等の品質として見なすことができる。（大きいとは、経験則で50cm前後）
- 側壁の厚さは、二次製品天端幅の2倍かつ10cm以上及び製品巻き込みは10cm程度とする。
- 底盤部のコンクリート施工厚さは、二次製品底盤の厚さ以上とする。
- 前後の水路に基礎がある場合は連続して基礎を施工し、基礎がない場合は洗い砂等の散布程度でコンクリートを直接打設することができる。
- 屈曲部のマチ施工を行う場合に、前後の二次製品通水断面積を確保できるように注意すること。
- 構造物への取り付けはできるだけ二次製品をあて、マチ部は水路端部を避けるようにすると出来映えが良くなる。

標準的なマチ部施工図



(7) 天端処理をする場合、下図を参考にする。



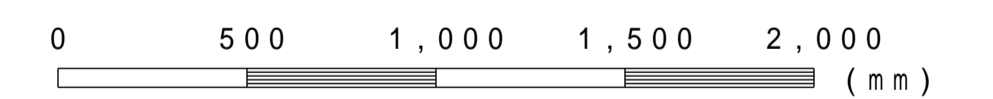
注 意 事 項

- 本図は、ベンチフリューム等（ベンチフリューム、県規格排水フリューム及びこれらに類似する製品）コンクリート二次製品水路の標準的な目地施工について解説する。
- 曲線・屈曲部の布設において、標準的な目地施工の範囲を超える間隔（襷：マチ）がある場合の補強は、本図を標準として施工すること。
- 水路の施工環境が射流域又は水衝部である場合は、別途創意工夫が必要となる。
- 材料仕様

モルタル 1：3

コンクリート 18-8-40-60%BB又は21-12-25(20)-55%BB

吸い出し防止材 ヤシ繊維



この図面はA1サイズ、scale freeです

工事名	
図面名	標準目地施工図
作成年月	令和6年4月
縮尺	図示 図面番号 09-01[04]
会社名	
事務所名	